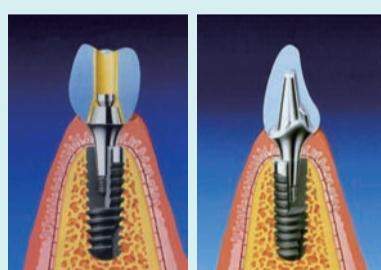




近年、日常の歯科臨床においてインプラント（人工歯根）を用いての治療が多く行われています。インプラントは、歯科治療の可能性を大きく広げています。

決定する要因としては、
インプラント治療の予後を
上げてきました。現在臨床に使
用されているインプラントシス
テムが、その基礎を築いてきま
した。インプラント治療がうま
くいった場合には食物をよく
噛むことができ、健康を保つ
可能性が大きく広がります。
しかし、それですべてが満たさ
れている訳ではありません。す
べての症例が適応となる訳で
はありません。

インプラント治療の予後を
が重要です。
①適応症の決定
②インプラント治療後の口腔
ケア
③さらに歯が喪失する前から
口腔ケアを行っていること
があります。



「食」という字は、「人」と
なってから、インプラント治
療を行えるようになります。
まずは口腔ケアから始めます。
インプラント治療の主な禁
忌としては口腔ケアができない
症例です。したがってインプ
ラント治療を始める場合には、
まず口腔ケアが始めます。



治療を開始します。また、歯槽
骨が健全な状態であることが
必須条件です。したがってすべて
の歯と歯槽骨が健全な時か
ら口腔ケアを行つておく必要
があります。

しかしながら、口腔ケアはイ
ンプラント治療の場合のみに
重要ではありません。歯科領
域で最も多く発症するう蝕、
歯周病の予防に重要な役割
を演じています。また、口腔の
環境は誤嚥性肺炎に強く関
わりがあります。口腔ケアを
行うことにより肺炎が減少す
ることが、報告されています。
さらに、一部の症例で感染性心
内膜炎、糖尿病、バージャー病、
早期低体重児出産、インフルエ
ンザなどの関与が指摘され
ています。最近では、ビスマス
フォネート服用患者にみられ
る頸骨壊死の発症が、口腔ケ
アと密接な関係がある
ことが分かつきました。

「良」という字を合成したもの
です。元気な身体は「噛める
歯」がつくります。日常から口
腔ケアに気をつけることが大
切です。

シリーズ 治療の最前線 「インプラント治療」

歯科・口腔外科
科長 島原 政司

部署紹介

「輸血室をご紹介します」

輸血室・室長 河野 武弘



輸血は、さまざまな診療科で実施されている、現代の医療に無くてはならない治療法ですが、その歴史は古く、わが国で初めて輸血が実施されたのは1919年(大正8年)と報告されています。第2次大戦後のいわゆる「売血」によって得られた血液による輸血から、無償の献血血液による輸血に移行したこと、輸血の安全性は格段に高まりました。

さらに、その後のさまざまな取り組みによって、現在では、輸血で用いる血液の安全性は世界のトップレベルになっています。しかし、その一方で、ウイルス感染や、他人の血液成分を体内に移植することに伴うアレルギー反応など、現代医学をもってしても防ぐことが困難なリスクが輸血には存在します。また輸血が必要なときに、誰でも安心して必要なだけ輸血を受けられるようになるためには、献血者が確保され、必要とされる血液が安定的に供給されるとともに、医療者も血液を適正に使用することが求められます。よって、輸血を実施する医療施設では、施設内で行われる輸血の実状がしっかりと把握・管理されている必要があります。現に米国では、管理体制が整い、認可を受けた病院でしか輸血を行うことができません。わが国では、平成15年に「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」(血液法)が施行され、「血液製剤を適正に使用し、安全な輸血医療に取り組むこと」がすべての医療関係者の責務として法律で定められています。当院では、血液法が施行されるずっと以前の昭和52年に輸血室が設置されました。現在、輸血室は日本輸血細胞治療学会の認定を受けた医師1名と認定輸血検査技師4名を中心に、専任スタッフ8名で構成されており、24時間体制で院内の輸血をサポートしています。

【輸血室の業務】

①輸血検査

患者様の血液型(ABO式やRh式)の検査や、患者様の血液と適合した輸血用血液を準備するための交差適合試験、輸血の副作用の原因となる不規則抗体の有無を調べる検査などを行います。



②輸血用血液の管理

赤十字血液センターへ輸血用血液を発注し、納品された血液を適正な方法で保管管理しています。そして診療科からの依頼が入りますと、前記の検査を行って患者様に適合と判定された血液を供給します。特に患者様の命に関わるような、危機的な出血時には、その緊急性に則した検査を行い、患者様にもっとも益をもたらすと考えられる血液を迅速に準備、供給します。



③自己血輸血

あらかじめ予定された手術での出血に備え事前に貯血した血液を保管しておき、手術時にその血液を輸血することを自己血輸血といいます。当院は自己血採血専用の部屋を完備しており、輸血室では採血から保管、払出までの管理を行っています。

これらの業務の他に、アルブミン製剤の管理や、造血幹細胞移植療法のために採取された幹細胞の保管管理なども行っています。

【安全で適正な輸血に向けての取組み】

当院は診療各部門の医師、看護師、薬剤師などさまざまな医療スタッフで編成される輸血療法委員会を設置し、チーム医療として輸血に取り組んでいます。輸血室は、血液の使用状況や副作用の発生状況など輸血に関するさまざまなデータを収集、分析して最新の輸血関連情報とともに委員会に提示し、活発な討議の中心的な役割を果たしています。

当院は、日本輸血細胞治療学会の視察を受け、「安全で適正な輸血医療を実施している施設」とお墨付きをいただいている。全国で48病院、関西圏では5病院のみがこの認証を取得しています(平成22年8月31日現在)。

輸血室では、今後も、献血者から提供いただいた貴重な血液を有効に活用し、より安全で適正な輸血を患者様に受けいただけるよう、日々努めてまいりたいと考えます。

情

報

コ

一

ナ

一

院内コンサート

平成22年9月25日(土)午後2時から、附属病院外来ホールにおいて、本学グリークラブ、室内管弦楽部、糖尿病代謝・内分泌内科科長、附属病院看護部による演奏会が行われ、最終曲「ふるさと」では来聴者全員が合唱し、楽しいひと時を過ごされました。



高槻まつり

今年で、4回目の参加になります。今年は、高槻音頭と高槻ウェーブ共に参加しております。踊りも、回を重ねる度にチームワークもでき、徐々に上達しているようです。

これからも、高槻まつりには、できる限り参加したいと考えておりますので、皆様今後とも大阪医大連をよろしくお願いいたします。

